

第632回

I B C番組審議会 議事録

— 議 題 —

忘れない3. 11

仮設住宅は今～7年の歳月が変えたもの～

平成30年7月26日（木）

㈱ I B C 岩手放送

第632回IBC番組審議会

1. 開催日程 平成30年7月26日(木) 午前11時
2. 開催場所 IBCデジタルセンター3階Dホール
3. 委員の出席
- | | | | |
|---------|--------|--------|--|
| 委員総数 | 10名 | | |
| 出席委員 | 7名 | | |
| 出席委員の氏名 | | | |
| 委員長 | 田代 高章 | | |
| 副委員長 | 熊谷 志衣子 | | |
| 委員 | 宮 順子 | 澤口 たまみ | |
| | 小松 務 | 菅原 和彦 | |
| | 佐藤 求 | | |
- 会社側の出席
- | | |
|--------|-------------------|
| 鎌田 英樹 | 代表取締役社長 |
| 眞下 卓也 | 取締役放送本部長 |
| 中島 勝志 | 報道局長 |
| 江幡 平三郎 | 担当ディレクター、アナウンス部部长 |
| 甲斐谷 望 | 担当ディレクター、アナウンス部 |
- 事務局
- | | |
|-------|-----------|
| 若槻 修 | 番組審議会事務局長 |
| 平澤 泰志 | 番組審議会事務局員 |
4. 議題 忘れない3. 11
仮設住宅は今～7年の歳月が変えたもの～

5. 議事の概要

<委員の主な発言>

- たくましさや明るさがある中で、話をされた方の表情や言葉から切なさが伝わってきた。まさしくタイトルどおり「仮設住宅の今」というところを伝えていると思う。その中でも「自分は強いと思っていたけれども、震災を経て自分の弱さに気付いた。精神的に押しつぶされそうで情けない」という言葉がとても切なく、印象に残った。
- 丁寧な番組作りの中で、メッセージをコンパクトに伝えることと、余韻をきちんと残すことが両立していて、私にはとても心に入ってくるシーンが多い番組だった。表情を見ながら言葉を聞くことができるというのは、文章だけの媒体ではできないテレビならではのことだと思った。
- 番組は3人のインタビューがメインと感じたが、視聴者としてはアクセントが欲しかった。例えば仮設住宅の数がいっぱいあったのに少し減ってきている映像とか、7年経った今みたいなものをもう少し示してもらおうと視聴者に訴えるものがあったと思う。
- 仮設住宅や仮設の商店街が1つのユニットとしてコミュニティを形成してしまっていて、仮設に入居している期間が長ければ長いほど絆が深まって、逆にそこが復興と相反する。非常に複雑な気持ちで見た。どっちが良かったのか。2、3年で仮設暮らしが全員解消していればどうだったんだろうか、というのが率直な感想。
- 仮設住宅に残る人たちの年齢構成を示してもらおうとわかりやすかった。そうすることによって、経済的に苦しく、しかも高齢の俗に言う世の中の弱者といわれる方々が仮設住宅に残され、将来に不安を感じているという状況が数字の上でもリアリティを持って示せたかもしれない。